こいのぼりと鶏

小川未明

青空文庫

泉水せんすいの中に、こいと金魚きんぎよが、たのしそうに泳およいでいました。しかし、黒くろいねこが、よくねらつていますので、ゆだんができませんでした。いつ、つかまえられて、食たべられてしまいかしれないからです。

「私わたくしが、見張みはりをしてあげましょう。」と、毎日まいにち、泉水せんすいのほとりで遊あそんでいる鶏にわとりがいました。鶏にわとりは、すばしこかったから、けつして、ねこにとらえられるようなことはありませんでした。

「どうぞ、おたのみいたします。」と、こいと、金魚きんぎよはいいました。

鶏にわとりは、毎朝まいあさ小舎こやの屋根やねに飛とび上があがって、いい声こえで、ときをつくりました。そして、黒くろいねこが泉水せんすいの近ちかくを歩あるいていると、コケツコ、コケツコといって、泉水せんすいの中なかの金魚きんぎよや、こいにも、注ちゆう意いをしたのであります。

すると、金魚きんぎよも、こいも、水みずの中なかに深ふかく、くぐつてしまいました。

「なんと羽はねのあるものは、自由じゆうじゃないか。」と、鶏にわとりはいつて、金魚きんぎよや、こいに対してたい、威張いばりました。金魚きんぎよや、こいは、なんといわれてもしかたがなかったのです。

「あなたは、ほんとうにえらい。」といっていました。

ある朝、金魚や、こいが目をさまして、上を見ますと、小舎より、もつと高く、空に大きなこいのぼりが、ひらひらとしていました。こいは、これを見ると、喜びました。

「あんなに、大きな仲間が、あすこへやってきた。もう、鶏のお世話にならなくても、あの仲間が、黒ねこのきたのを知らせてくれるだろう。」と、こういいました。

「鶏さん、長い間、ありがとうございます。しかし、私たちの仲間が、あんなに高いところへきたから、もうだいじょうぶです。」と、こいが、鶏に向かつていいますと、鶏も、

これからは威張られなくなつたと、元気がありませんでした。

太郎さんは、その晩、こいのぼりを家へ入れるのを忘れました。そして、夜中から、ひどい雨になつたのであります。

夜が明けてから、金魚や、こいが上を見ますと、大きなこいのぼりは、雨にぬれて破れて見る影もありませんでした。

「おまえの仲間というのは、あれは、なんだい。」と、鶏はいつて笑いました。そして、勝ちほこつたように、小舎の屋根へ上がつて、ときをつくりました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 ㊦」講談社

1977（昭和52）年2月10日第1刷発行

1977（昭和52）年C第2刷発行

底本の親本：「ある夜の星だち」イデア書院

1924（大正13）年11月20日

初出：「コドモアサヒ」

1924（大正13）年5月

※表題は底本では、「こいのぼりと鶏《にわとり》」となっています。

※初出時の表題は「鯉幟と鶏」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：栗田美恵子

2019年4月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

こいのぼりと鶏

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>